

当日の主なやりとり			備考 (補足説明など)
	市民の発言	市長の発言	
1	1月20日(土) 春日集会所 芦屋市には体育館が1つしかありません。阪神淡路大地震の時、私は西宮市にいましたが、あんなに大きな市でも体育館は定員オーバーでした。今回、石川県でも地震がありました。今後芦屋でまた震災があった際のことを考えてしまいます。また、健康面でも、体育館は子どもからお年寄りの方まで天候に関わらず全員が使える場所なので、もう少し増やしていただけたらと思います。涼風町でミズノのスポーツ施設があり、建て替えなどの話が出ていましたが、私は現状維持ではなく、体育館を建てるのが皆さんにとってベストではないかと思っています。	公共施設の考え方について話をさせてください。まさに今回の会場の春日集会所については、統廃合の話が数年前にありました。その際、なぜ施設を減らす話になったのかを少し説明します。芦屋市は今後、どんどん人口が減っていきます。我々も頑張っていますが、少子高齢化というのは日本中の問題なので難しいところもあり、人口の減り方をなんとか緩やかにしようと努力しているのが現状です。その中で、公共施設の維持管理費用が問題になってきます。芦屋市は大きな会社や工場がたくさんあるわけではなく、主に市民の皆さまの市民税で成り立っている街です。人口が減ると税金も減りますので、1人当たりどれぐらいのお金を使って公共施設を守っていくかを考えなければいけません。芦屋市は、平成29年に公共施設を今後どう守っていくかを計画にしていますが、その中では、公共施設の延床面積は、市民1人当たり4.2㎡を守っていこうと決めています。つまり全部の床面積の合計は「4.2㎡×人口」までにとしようと決めたということです。人口が減るだけでは公共施設は減りませんので、次第に4.2㎡を上回ってきます。何とかいい形で公共施設を守るために、まずは既存の公共施設について考えます。たとえば集会所も体育館も、100%使われているわけではありません。できるだけ使用率が上がるよう使いやすくしたり、民間施設をうまく活用したりすることも考えています。以上の観点から考えると、新しい施設の建設はなかなか難しいのが正直なところです。もちろん、体育館が避難所になり得るといった意味でも既存の体育館をより良い環境にしていくことは考えなければいけないと思っていますし、それ以外の避難所に指定されている場所もより皆さんに安心していただけるよう、きちんと整備を進めていきたいと思っています。	
2	1月20日(土) 春日集会所 春日町の集会所問題について、市民と市が対話しながら統廃合をどうしていくか考えていかなければと思っていますが、集会所問題についてのやり取りは文書でくださいと言われていて、説明会を要望してもできないと言われ、話し合いすら拒否されていますが、対話はできないのでしょうか。最後に返ってきた公文書には、この件について一切聞かないでくださいと書かれており、これまでの経緯の中で、いろいろと不信感があります。	そもそも、春日集会所の課題について改めて説明します。 今、打出教育文化センターを改修しているのはご存じでしょうか。4月1日にオープン予定ですが、そこ春日集会所が近く、また春日集会所の利用率も高くなかったため、統廃合できるのではという話を最初していました。その後、地域の皆さんから様々なお声をいただき、春日集会所の統廃合は難しいと判断し、統廃合計画は凍結しました。現状、春日集会所をすぐ廃止することは考えていません。文書の件については、担当課に確認いたしますが、私が大事だと思っているのは、どうやって市全体として集会所を守っていくかということです。先ほどのご質問にもお答えしましたが、公共施設をいい形で維持していくためにどうするのかは、タイミングを見て市民の皆さんとお話する必要があると思っています。	
3	1月20日(土) 春日集会所 春日集会所について、需要が少ないという話もありましたが、利用される方も大切に思っている方も多くいらっしゃいます。今後改修が必要となるタイミングが来た際は、建物をきっちり直していくことを考えて欲しいと思います。集会所の利用を増やすことが重要だと思っており、私は集会所で体操教室に通っていますが、非常に体調が良いですし、仲間ができ、いろいろお話することで認知症の予防にも繋がっています。市が主導して体操や歌の教室などをやっていたらいいと思いますが、それを広げていただければ一石三鳥ぐらいの効果があるのではないかと思います。	市主催で実施している生きがいデイサービスやさわやか教室も知っていただきありがとうございます。	
4	1月20日(土) 春日集会所 春日集会所で卓球クラブをやっていますが、平均年齢が相当高齢になっています。新型コロナウイルス感染症が流行する前は非常に人数が多かったのですが、コロナ禍で人数が半減してしまいました。卓球は子どもから高齢の方まで、初心者でも楽しめますし、健康や認知症予防にすごくいいと思います。これからも集会所で卓球を続けていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。		
5	1月20日(土) 春日集会所 先ほどの集会所の統廃合の件でもありましたが、市が対話してくれないことは多々あります。市役所にかかわらず、お役人は核心に触れて、都合の悪いことはだんまりですが、それは良くないと思います。せめて、あなたの言っていること分かります、個人的には私もそう思いますよ、などと言っていただければいいのですが、そういう方は誰もおられません。	5月に就任してから職員と話していて、思ったことがあります。私も外からみていると分からなかったのですが、基本的に職員は自分が話したことが市の発言になりますので、発言に対する責任感を持っています。市民のかたからすると、個人の意見も言っていただければいいのと思いますが、個人的には理解できても、芦屋市全体のことを考えると認めることは難しい、といったことはあります。要は、どう信頼関係を築くかが重要だと思います。私も職員に日ごろから「できないことはきちんとできないと言ったほうがいい。ただし、なぜできないかをきちんと説明しないと、納得はしていただけませんよね」という話をしています。対話を拒否されたというのは残念なことです。そこについては、きちんと理由を説明するよう伝えていきたいと思っています。	

当日の主なやりとり			備考 (補足説明など)	
	市民の発言	市長の発言		
6	1月20日(土) 春日集会所	<p>高齢社会の中、今後も高齢者率は上がっていきますので、高齢者の健康と福祉についてもう少し強く考えてほしいと思います。現在、老人会で高齢者の見守りを兼ねて、赤飯を配る取組を行っていますが、補助金が少なく、ほぼ毎年自腹を切っていますし、他の取組もすればそれも自腹になります。高齢社会である以上、高齢者の活動を支援する補助金を増やして欲しいと思います。会費を増やせばいいとのご意見もありますが、高齢者になればなるほどお金は厳しいですし、イベントにも参加しなくなってしまいます。芦屋市は全国でも補助金が高いようですが、全国的にも老人会の入会者が減っていますし、解散してしまうという話も聞きます。やはり会員に対して、いろいろな補助ができないと継続は難しいのではないかと思います。高齢者の健康に向けて、補助金を厚くしていただく検討をお願いいたします。</p>	<p>老人クラブだけではなく、色々なところに市から補助金が出ています。市でやるべきことを、他の形でやっていた部分があるのであれば、非常にありがたいと思いますし、そこに対価をお支払いすることは持続可能な部分もあると思います。</p> <p>ただ、補助金制度というものは結構不安定です。市の財政状況が厳しくなれば、お渡しするのが難しくなるお金ですので、補助金に頼らない形で持続可能な形で会を運営していくにはどうしたらいいか、ということ色々な会の方々とお話をしています。こういう状況を考えると、補助金を増やすことは相当難しいんです。</p> <p>私はどちらかという、一人ひとりにお金をお渡しするより、環境整備にお金を使った方が、効果が高いのではないかと考えています。例えば皆さんに何万円配りますという話より、そのお金で皆さんに資するような環境づくりをしたいと考えています。環境整備では、できるだけ皆さんの近くに相談できる場所を作ることが大事だと思いますので、現在市内には4箇所の高齢者生活支援センターがありますが、そこをもう少し整備できないか考えていきたいと思っています。</p>	
7	1月20日(土) 春日集会所	<p>私は聴覚障がいで、耳が聞こえず、いつも障がい福祉課のサポートを受けています。障がい福祉課の障がい者(児)福祉計画に意見があります。計画の中には、子どもが障がいのある親のサポートはありますが、子どもを産んで育てる障がいのある人の家庭に対するサポートがありません。例えば、保育所や学童保育に入るとき、仕事をやめないといけなことがあります。それは聞こえる人も同じだと思いますが、私の場合、ろうあなので理解をしていただくのに限界があり、次に探す仕事の範囲が狭く大変だったという悔しい思いがありました。身体障害者手帳を持っていても、入所は公平だと言われましたが、状況が同じということには疑問を感じます。入所後も、先生の理解は少なく、コミュニケーションがなかなかとれず、トラブルもありました。親がろうあの場合を想定した先生の研修もないと聞き、理解をしていただけていないように感じました。車椅子のお友達が入った保育所では、車椅子用の駐車場がなく、車での送り迎えができなかったそうです。重い障がいのある人が希望どおりの保育所に優先的に入れるようなサポートがあればいいと思います。私としては、子どもに頼らないように子育てしていますが、学校の先生や大人が私の子どもに通訳してくださいと頼むんですね。本当は子どもを守る立場なのに、大人が子どもに頼ってしまっていることを心苦しく思います。障がいのある人も安心して子育てができるように、そういった支援も考えて、計画を策定して欲しいと思います。</p>	<p>この話は、子どもさんの負担の程度によってはヤングケアラーの話にも繋がっていきますね。学校でもインクルーシブ教育の話はしますが、親御さんの支援の話についてはちゃんと話せていないケースもあるかもしれませんので、計画に記載のない支援の部分について担当課とも話してみたいと思います。</p>	<p>障がい福祉計画・障がい児福祉計画につきましては、国が定める基本指針に基づき、障害福祉サービスや地域生活支援事業等の見込量の設定やその基盤整備に向けた方策などを定める計画になるため、計画には記載がありません。また障がい福祉課では、聴覚に障がいのある保護者の方が学校行事・懇談会などに参加される際、申請に基づき、手話通訳者・要約筆記者の派遣を実施しています。さらに毎年度、障がいの疑似体験・当事者談などを取り入れた職員研修を実施することで、障がい理解の促進を図っています。</p>
8	1月20日(土) 春日集会所	<p>芦屋生まれ芦屋育ちですが、これまで芦屋市のことについて自分から知りに行くということをしてきませんでし、集会所の統廃合という話も、正直何も知りませんでした。今回、この会に参加して、少しでも自分の暮らしている市を知り、何かできることはないかを探しに参加しました。元々管理栄養士として病院で働いていましたので、高齢者の方がお亡くなりになっていくところや、元気がなくなっていくところを見て、地域で生きていくことの大切さは身に染みんでいます。また、自分たちがこれから認知症や早期のがんにならないためにも、病気になっていない未病の時点から、自分たちの健康管理に対する取組がとても大事だと思っています。食や運動、考え方も大事ですし、こういう地域の中での交流をしていかなければとは分かっているのですが、なかなか難しい現状があります。ほとんどの方がお隣さんの顔は知っていても、その隣の方は分からないと思います。そういうところを変えていかなければいけないと思っはいるものの、自分一人ではできないことですし、市でもやはり限界があるということも感じましたので、そこを民間やみんなが協力することで、皆がこういうことをしたらいいのではということと言える、こういう対話の場を増やして、またそれに協力できる人たちどんどん増やしていくことがより大事だと感じました。私ももっと芦屋のことを知り、できることをやっていきたいと思いますので、何かできることがあれば声をかけて欲しいと思いました。</p>	<p>いかに若い人たちに集会所を使っていただくか、というのは結構大事なことだと思います。例えば自治会のお祭りや子ども会に参加している方は使ったことがあるかもしれませんが、使ったことがない方も多いと思います。選挙でも集会所は使われていますが、逆に選挙でしか行ったことがない場所に行くのは気が引けますよね。</p> <p>できることをやっていきたいという言葉、ありがとうございます。ぜひ動き始めていただければ嬉しいです。</p>	

当日の主なやりとり			備考 (補足説明など)
	市民の発言	市長の発言	
9	1月20日(土) 春日集会所 特殊詐欺について、兵庫県が昨年度過去最多を記録しています。もちろん芦屋市でも被害は出ています。西宮市は70歳以上の全ての留守宅、老人宅に録音電話を設置し、芦屋市でも7,000万円ほど予算を計上しています。特殊詐欺の予防について、自分で分析しましたが、防止には警察やシルバー人材センターなどの人材が必要かと思ひます。調査を行い、法人や警察、市役所、シルバー人材センターがまとまれば、安いお金で詐欺を防止できると思ひます。特殊詐欺はゼロにしましょう。	特殊詐欺、本当に大事な課題だと思ひます。電話の自動通話録音機に県の全額補助が出るのでは、という話がありますので、しっかりと取り組んでいきたいと思ひます。	令和6年4月より特殊詐欺被害防止の為、特殊詐欺等対策電話機等購入補助事業を開始しています。65歳以上の高齢者等を対象に、①着信前自動警告機能及び②自動通話録音機能のついた「固定電話機」又は「外付け録音機」を購入・設置いただいた場合に1万円(外付け録音機の場合は5千円)を交付します。また、特殊詐欺被害防止のため、芦屋警察署と連携して周知・啓発に努めてまいります。
10	1月20日(土) 春日集会所 JR芦屋駅南地区再開発事業について延長されましたが、図面だけではなく一度段ボールなどによるミニチュアを作って立体的に見られるようにしてほしいです。それがあれば、工期や問題点、予算がどれくらいかはすぐ理解できます。	JR芦屋駅南地区再開発事業については、次の議会で、今どういう状況か、どういう方針で進めていくかを説明する機会がありますので、ご確認いただきたいと思ひます。	
11	1月20日(土) 春日集会所 昨年神戸市で出産し、産後ケアを利用していました。神戸では日帰りが2,000円、宿泊が6,000円でしたが、芦屋市で利用しようとする、日帰りが6,500円、宿泊が1万4,000円と高すぎて利用できませんでした。明石市では1歳まで家におむつが届くとも聞きましたが、そういうサービスがあれば、芦屋市で出産したくなるのではないかと思ひます。個人的には預かってもらえる間の睡眠が大事だと思ひます。	10月の対話集會でも、似たようなお話がありました。例えば、日帰りに行くのが嫌で自宅に来てもらった方が助かるという話も聞いたこともあったのですが、そういう人ばかりではないということですね。産後ケアについても、継続して考えていきます。	産後ケア事業については、本年4月より自己負担額を引き下げるとともに対象も産後1年までに延長するなど利用いただきやすい制度に改めました。
12	1月20日(土) 春日集会所 デジタル化が進んでくると、デジタル格差が顕著になってきます。自宅にこもっている人もとにか外に出てきてほしい、もしくはコミュニケーションをとりたいて考えていますが、紙媒体の情報は一方通行ですし、相手の反応も分かりません。クイックレスポンスという観点では、今後デジタルの活用は避けて通れません。そういう意味で、我々は町内の色々な方に声をかけ、独自にスマホの講習会を開いています。しかし、参加している人はほんのひと握りです。地域と高齢者世代とのコミュニケーションが非常に難しく課題に思っています。他の自治体では、スマホを貸与するといった取組があると拝見して、それができるかどうかは別として、芦屋市としても情報格差のある人に対してのコミュニケーションの取り方を長期的な観点で考えていただきたいと思ひます。	2月1日から、キャッシュレスポイントの還元事業というものを実施します。PayPayで支払いをする、と20%キャッシュバックが最大6,000円分返ってくるという事業なのですが、スマホがない場合は利用できません。色々なご意見はいただきますが、我々として一番避けたいのは、皆さんに還元できないお金が多くかかってしまうことです。例えば紙の印刷費や郵送費などですね。ですので、できるだけそういうところにお金がかからないようにした結果がデジタル化での対応になっているんです。この対話集會の申込み、申込開始日が日曜日なので、電話対応のため休日出勤をしてもらっているのですが、Web申込であればその人件費は必要ありませんよね。本当はデジタル化をもっと進めたいと思ひているのですが、お話にもあったように、どうやってその環境を作るかが課題です。今回のキャッシュレスポイント還元事業に加え、県もはばタンPayの事業を新しいスマホアプリで行うため、講習会をラポルテで開催しているようです。こういった機会をきっかけにデジタルツールに触れていただきたいと思ひています。また、自治会などでスマホ教室をしてくださっている方々を応援していくことも含めて考えていきたいと思ひます。	
13	1月20日(土) 春日集会所 高齢者生活支援センターの話がありましたが、親が最近介護認定を受け、要介護の認定を受けました。要支援認定であれば、高齢者生活支援センターに相談することになりますが、要介護認定であれば送付いただいたケアマネジャーの事業所リストから自分で電話して相談するようになっています。そのリストでは、相談できる事業所に丸印がついていましたので、自宅から近いところから順に電話しましたが、どこも断られたため、結局自身で介護しています。相談を受ける人間が足りないとのことなのですが、市役所からもらった資料に相談できると記載しているのになぜ、と疑問に思いました。随時スマホなどで確認できるようにしてほしいです。また、自費で介護ベッドを借りているのですが、介護認定が出れば補助があると聞きベッド会社に電話すれば、直接は申し込みできないと言われました。自費から変更するのも、ケアマネジャーの事業者連絡し、計画が立てた上で依頼しないとできないらしく、何のための介護認定でしょうか。何か急に不安があったときの相談先が欲しくて介護認定を受けたのに、誰にも相談できません。相談できる事業所をリアルタイムで分かるようにしてはどうでしょうか。	高齢者生活支援センターでは、要介護の方の相談ができないということはありません。ケアマネジャーさんが見つからない場合なども相談に乗ることは可能です。今回の話については、担当課にお伝えします。	居宅介護支援事業所の空き状況について、オンライン上で随時、更新・確認が出来る仕組みを整備中です。
14	1月20日(土) 春日集会所 親が市営住宅で一人暮らしをしています、近くに年金など現金を引き出せる場所がありません。行政に言うのは少し違うのかもしれませんが、どこであれば引き出せるのかと思ひました。	銀行がどこにATMを置くかという話ですよ。お持ちのキャッシュカードによっては対応していないATMもあるということを見ると、現金以外のキャッシュレス決済を使ってみるというのも一つの手法なのかもしれませんね。	

当日の主なやりとり			備考 (補足説明など)	
	市民の発言	市長の発言		
15	1月20日(土) 春日集会所			
1	1月20日(土) 打出集会所	市営住宅に認知症の方が増えたと感じています。居住者の60%以上が60歳以上で、孤独死もあったと聞いています。出歩いて交流の場をもつ必要があると思いますが、その地域に住む方以外は参加できないイベントもあり、参加できる場所があったとしても家から遠かったり、交通の便が悪かったりもします。高齢者が出歩ける場のことについて考えていただきたいと思います。	お住まいの地域限定で参加できるというのは、こども食堂も同じ運用だと聞いたことがあります。自治会費を使ってイベントを開催している場合には、自治会員に還元するといった意味合いがあるのかもかもしれません。集会所でやっているイベントの中には、そうでないものもたくさんあると思うので、イベントを知っていただくことは大事ですね。市民の皆さんがやってくださっているイベントをどう周知していくかは結構大事なことだと思いました。	地域食堂、こども食堂でメインターゲットを近隣の地域住民としているところもありますが、他市からの参加者も受け入れています。また、地域支え合い推進員が発見したつどい場については、「つどい場ガイド」にまとめ、市内各所に配架するとともに、市ホームページからも閲覧可能にしています。
2	1月20日(土) 打出集会所	自治会掲示板や広報掲示板は見ますが、広報あしやについては、字が細かすぎて見えないことがあります。	広報掲示板などは結構皆さん見てくださっているようでありがたいです。「広報あしや」のイベント欄などはあまり見られていないようなので、文字の大きさなどは考えていきたいと思います。	
3	1月20日(土) 打出集会所	広報あしやは最初から最後まで、一言一句逃さず見てます。とてもいいことを書いていますので、誇るべきものかと思えます。	ありがとうございます。	
4	1月20日(土) 打出集会所	こども食堂などは、芦屋市が作った集い場の本が結構宣伝になっているみたいですよ。	「つどい場ガイド」のことですね。好評のようで、ありがとうございます。	
5	1月20日(土) 打出集会所	今、認知症の方がどれくらいおられて、どれくらい下げる目標なのでしょう。また、胃がん検診の受診率なども4.5%ですが、それについても今後どのくらいを目指すのでしょうか。	実は、数値目標などは計画の中で定めています。認知症の関係でいえば「すこやか長寿プラン」、検診の関係でいえば「健康づくりプラン」という大きな計画があります。どちらも今まさに新しい計画を作っているところで、年度内には完成します。がん検診の受診率をあげることは、皆さんぜひ受けてくださいと、とにかく色々な手段でお願いすることだと考えています。現在は、市が実施するがん検診の受診者数しか反映されていませんで、職場でがん検診されている方の数字も拾っていくことができればいいのですが、今の数字が完璧ではありませんので、何らかの形で把握していければいいなと思っています。具体的などは、現在計画の原案がWebサイトに公開されていますので、そちらもご確認ください。	兵庫県が公表している兵庫県下の各市町のがん検診の受診率は、各市町が実施しているがん検診の受診者数のみの受診率となっています。なお、現時点では、市町が実施しているがん検診以外に、会社の健診や、人間ドック等に含まれるがん検診を受診された方を、市町が実施するがん検診の受診者として計上する「みなし検診」の仕組みはありません（現在、「みなし検診」の仕組みがあるのは特定健康診査のみです。）。
6	1月20日(土) 打出集会所	私は産婦人科医として、日々子宮頸がんの啓発をしています。子宮頸がんの予防にはHPVワクチンと、子宮がん検診が非常に大切です。このことを限られた診療時間の中で1人ずつにお話をしていくのはなかなか難しく、悶々としています。HPVワクチンは本来、子宮頸がんだけを予防するわけではなく、肛門がん、中咽頭がんや陰茎がんなどの男性のがんの予防にもなることをもっと知っていただくことが必要だと思っています。日本では中咽頭がんが最近増えてきているようで、半数ぐらいがHPVが原因になっているという話です。男性の方も将来がんを防ぐ目的と、あとは子宮頸がんに関しては性交渉によりHPVを感染し合ってしまうことから、男女ともにワクチンを打ち、皆で子宮頸がんを予防する必要があります。実際、欧米諸国では、男子も女子も定期接種しており、接種率が高い国は子宮頸がんが減ってきています。日本はまだ遅れているので、もう少しその辺をしっかりと進めていくべきだと思います。男子のHPVワクチンに全額助成をしている地区も増えてきているので、関西ではぜひ芦屋市が初として行えばいいのではと思っていますが、市長はどのようにお考えですか。	東京圏などでは男子ワクチン接種に助成をしていますね。HPVワクチンは1度勧奨しなかった時期があり、その後安全性がある程度確保されたことで、勧奨しなかった時期に受けられなかった特に当時対象年齢だった女性を中心に、ワクチン接種を受けませんかという、いわゆるキャッチアップ接種の案内を送付しています。そういった中で、HPVワクチンの安全性を知ってもらいたいという学生団体の方から連絡があり、男の子向けにもワクチン接種をしたらどうかとの話をいただいたこともありました。議会でも、キャッチアップ接種についての質問を受け、市役所内でも議論し、今すぐに男性に対する接種となると難しいですが、今後も継続して考えていくべきとの結論となりました。今回、HPVワクチンの学会と協定を結んで連携し、もっとキャッチアップ接種を周知していこうと動いています。これは国がコンセンサスをとって、優先順位を高めてやっているから動きやすいというのがあります。現在は、キャッチアップ接種の対象の方、また現在の対象の方も含めて、きちんと接種について考えてもらうことを、来年度までの3か年でまず注力してやっていくとしています。厚労省の委員会でも、男性接種の議論は始まっていますので、経過も踏まえて考えていきたいと思っています。	

当日の主なやりとり			備考 (補足説明など)	
	市民の発言	市長の発言		
7	1月20日(土) 打出集会所	<p>キャッチアップ接種の世代の接種率は10%程度ですが、無償でキャッチアップ接種を受けられるの来年度の3月末まで日がありませんし、このワクチンは3回打たなければなりませんので、打ち切るのに半年かかります。そうであれば、9月には打ち始めないと間に合いません。市から案内を出すのは費用が多かかると思いますので、そこをキャッチアップ接種世代と年齢に近い市長がもう少しお声を上げていただければ、若い子たちも、その親御さん世代も聞く耳を持ってくださるのではと思っています。皆さん打った方がいいとは思っていても、やはりセンセーションになったニュースの映像を覚えていらっしゃるの、踏みとどまってしまうようです。科学的に問題ないのですが、その報道が先に来て、なかなか打つという動機に繋がらないところが問題だと思います。親御さん世代は法的な機関の情報を聞かれますし、お子さんたちは学校やSNSから情報を得られるので、それぞれの世代に応じた媒体でやはり啓発していく必要があると思います。昨年、文科省からも全国の小中学校、大学、専門学校にしっかり教育をしてくださいという要望があったと思うんですが、同じように先生が生徒に教育していくのも必要かと思っています。私も何かしらお手伝いできればと思いますので、市長からも市内の病院や医師に勉強会などをやりませんかとお話を投げかけていただければと思います。</p>	<p>接種率はとても低いですね。接種を検討することはとても意味のある事だと思います。期限も迫ってきていますので、私からの発信はしっかりやっていきたいと思っています。</p>	
8	1月20日(土) 打出集会所	<p>医療・保健の分野については、芦屋市の場合、県の事務所掌かかと思っていますが、その認識に間違いはないでしょうか。また、今の保健所が宝塚に行くという話もありましたが、今後も芦屋に置いていただけるのでしょうか。</p>	<p>仰る通り芦屋市自体は保健所を持っていませんが、形としては芦屋だけを見ている県の保健所があるという状況です。これによって、例えば新型コロナウイルス感染症が流行したときは、芦屋の情報だけを扱ってもらえたので、ある程度スムーズに回ったところもあったと聞いています。保健所が宝塚に行くという話は、現在凍結されており、現在、これについて県から特に話はありません。我々としては、芦屋市に保健所があるという安心感がありますので、独自で設置できない以上、お願いベースになりますが、しっかりと伝えていきたいと思っています。ただ、何年後になるかは分かりませんが、兵庫県もどんどん人口が減っていますので、どうしようもないという時が来るかもしれません。その際には、今まで通りのサービスの担保をさせていただきようお伝えしなければなりませんし、場所としてなくなったとしても、ちゃんと機能が残るように引き続き訴え続けるべきだと思います。</p>	
9	1月20日(土) 打出集会所	<p>保健所の事務手続きが市役所でできるということにはならないんですかね。手続きをどちらですればいいのかかわからず、保健所と市役所を行ったり来たりしてしまう手間があります。例えば、出張所のようなものが市役所の中にあれば、1度で済むかと思いますが、職員の人件費などの話もあると思うので難しいですかね。あればすごく便利かと思うのですが。</p>	<p>今の状況で県にそれを言えば、じゃあ保健所必要ないですね、と言われてしまいそうですが、今後言わなければいけないタイミングが出てくるかもしれません。この話とも繋がりますが、そもそも手続するのにわざわざ窓口に行かなければいけないのかということも考えていかなければなりません。今は土日祝日以外は、お盆であっても開いていますというのが原則になっていますが、人がたくさん来る時期・時間帯と、そうでない時期・時間帯がありますので、それらを踏まえて考えていく必要があります。また、できるだけオンラインの手続を増やしていくことも大事です。最近、マイナンバーカードを利用して、コンビニで証明書が取れるようになっていますが、多くの方が市役所に手続に来られています。そちらの普及啓発などももしていかなければいけないと思っています。</p>	
10	1月20日(土) 打出集会所	<p>子ども医療費の件で、来年度から800円負担になりますが、例えば明石市などでは高校卒業まで費用がかからないところもありますので、将来的に可能であれば、そこまで拡充していただければと思います。子どもはいろいろな病院にかかるので、いち医療機関あたりという部分がネックになります。例えばインフルエンザであれば、まず受診し、インフルエンザと分かれれば耳鼻科、肌荒れがしやすくなるので皮膚科にかかったり、また定期的に歯科検診なども受けます。</p>	<p>子ども医療費については、多くの方からご意見をいただき制度を改正することにしました。制度の対象年齢を高校生相当の方まで引き上げるとともに、1歳から中学3年生までの方の所得制限を撤廃し、すべての子どもが助成対象となるよう制度を拡充します。なお、拡充対象者の外来診療分の一月の窓口負担額は、一医療機関当たり1回につき上限800円とし、3回目からは負担なしとなります。芦屋は他の自治体に比べ、助成が少なかったですが、これにより、阪神間辺りで言えば1番か2番ぐらいいまで助成率が上がることとなります。確認したところでは、今病院にかかっている人の99%が負担減になります。ただし、この制度を維持できるかどうかは、市民の方々のご協力にかかっています。議会の中でも、800円にすることで気軽に受診するようになり、医療がパンクするのではないかとの議論もありました。我々としては、だいたい1年間に、約2.2億円で制度を拡充できると踏んでいます。結果は3億、5億になるかもしれません。そうすると、制度が続けられなくなりますので、ぜひ皆さんにも適正受診を心がけていただいたり、ジェネリック医薬品などを活用いただければと思っています。そして是非、このことを周りの方へもお伝えください。お話をいただいたように高校生まで全員負担なしにすれば、追加で1億円ほどかかります。少子高齢化がどんどん進み、子育てが大変になってくる状況の中で、できるだけ子どもを支援したいという思いはあります。ただ、限られた財源の中で同じ費用をかけるなら、あらゆる世代の環境整備にかけたほうが、全体の利益には資すると思っていますので、今のところ負担なしにすることは考えていません。</p>	

当日の主なやりとり			備考 (補足説明など)	
	市民の発言	市長の発言		
11	1月20日(土) 打出集会所	芦屋市では、神戸市や西宮市と違い、児童発達支援施設で療育を受けた後、保育所に預けることができません。それがなぜなのか分からないので知りたいです。児童発達支援施設でなく、病院で療育を受けた場合には許可されていますし、保育所に行った後に施設に行くのは許可されています。逆が認められているなら、お金が原因ではないと思います。共働きの家庭ですと、1～2時間の療育を受けに行ったがために、その日、どちらかが1日仕事を休まないといけません。その結果、芦屋市の児童発達支援施設の午後の利用枠が集中しています。芦屋市はインクルーシブ教育というのを推奨しており、発達障がいの子どもであっても、みんな一緒の環境で教育することがベースにあります。障がいのある子どもの親にとってはサービスが劣っているように感じます。子どもによって病気の度合いやどんな環境であればやっていけるかは違いますので、その辺は個別に選択肢を与えて欲しいです。	通っておられることも園だけでなく、全部の園でそうということですね。担当課に確認してみようと思います。ご意見いただきありがとうございます。	保育所等では、毎日落ち着いて園生活が送れるよう、同じ生活リズムを繰り返す等の支援を行うことにより、一日を通して生活全体が安定した中で質の高い教育・保育の提供に努めています。子どもや保護者と丁寧に向き合い連携しながら子どもの居場所の認識やクラスへの帰属意識の芽生えを促し、友達の中で過ごすことにより社会性を身につけられるよう支援も行っていることから、基本的な考え方は現状の時間帯での教育・保育を重要と位置づけ、今まで通りの考え方で支援を行うことが望ましいと思われると思います。個別に選択肢をもうけ対応していくことについては、ご意見を踏まえ、検討していきたいと考えております。ご理解を賜りますようお願い申し上げます。
12	1月20日(土) 打出集会所	認知症の方がなかなか外出できないとお話がありましたが、私の親は認知症ですがGPSをつけて毎日4,000歩ほどいきいきと歩いています。GPSやスマホの導入も進めていただければ面白いと思います。せっかく事業をやってらっしゃるので、どんどん周知してほしいと思います。	「認知症等高齢者GPS機器貸与事業」を知っていただきありがとうございます。他にも本市では様々な認知症施策を展開しており、引き続き周知に取り組みたいと思います。	
13	1月20日(土) 打出集会所	「健康づくりプランあしや」の原案を拝見しましたが、とてもいい案だと思います。それについて、前の計画と今回の計画で、違いや特に力を入れた箇所などを聞かせていただけるとありがたいです。また、計画については評価をしていると聞きましたが、PDCAをうまく回して欲しいです。	原案を見ていただいてありがとうございます。今回の健康づくりプランは、メンタルヘルス、自殺予防といったところに力を入れていますが、この計画には、母子の話や自殺予防、また食育などの話も全部一緒に計画に盛り込んでいます。というのも、私はいわゆるフレイル予防などの体の健康というものだけではなく、食の話、出産の話、メンタルケアなどを包括的に考えていくことを大事にしたいと思っているからです。 PDCAサイクルの話がありましたが、前回の計画の数値目標があって、その結果があって、結果に対する分析も行っているのですが、それがどう生かされているかということについては、正直役所は弱いと思っています。それについては、総合計画という市全体の大きな計画を見直すタイミングに差しかかっていますので、その中でPDCAをしっかり回していきたいと思っています。 また、せっかくなので計画について私が思っていることを1つお伝えします。市の計画については、法律で作成が義務づけられている計画、義務ではないけれど作ってあると補助金をもらいやすい計画、また市で独自でつくっている計画の3種類あります。それぞれの計画の内容を皆さんに知っていただいたり、その計画の意味をもっと際立たせたりしなければならぬと思っています。例えば市民マナー条例推進計画などは3つ目の計画ですが、なるべく皆さんに見えていただけるようなものに変えようとしています。計画を作るのにも職員の労力がかかります。計画が何のために必要なのかをきちんと見直していかなければならないですし、計画をつくるのが目的ではなく、政策をするのが目的ですので、何となくつくっている計画だったら廃止したり、複数の計画を統合したりすることも検討しています。今後も継続して考えていきたいと思っています。	
14	1月20日(土) 打出集会所	この対話集会については、公約の実践というところも含めて大変評価しております。前回の対話集会については、申しようと思いましたが定員に達しており無理でした。例えばそれぞれの対話集会の中で、どういった内容が話され、今後どのように検討されていくのかを、すぐに答えられることばかりではないと思うのですが、ホームページなどで回答するべきだと思います。行政ですし、簡単にいくことはないとは思いますが、やはりスピード感は大事だと思います。単なる聞きっ放しで終わってしまえば、せっかくの対話がいい結果にならないと思いますので、何らかの形でお話の内容についての結果を知らせていただけるような仕組みをつくってほしいと思います。	しっかりと内容をまとめて広報することは大事だという話を内部でもしていました。10月の子育て・教育に関しては、4回で100人を超える方々にご参加いただき、基本的にはご質問等にはその場で回答いたしましたので、持ち帰って後日回答するといった話にはなっていません。仰った通り、申し込めなかった方が多くいらっしゃったようです。対話集会でお話を聞いて反映させた予算などもありますので、その点も含め、うまく広報していきたいと思っています。	
15	1月20日(土) 打出集会所	12月に芦屋市に日本最高齢の方がいらっしゃると聞きました。おめでとうございます。私もそれを目指して、いつまでも元気でいたいと思いますので、市長よろしくお祈りします。	ぜひ長生きしていただければと思います。皆さんと健康づくりを頑張っていきたいと思っています。	

当日の主なやりとり			備考 (補足説明など)
	市民の発言	市長の発言	
1	1月24日(水) 潮見集会所 本日この集会所にたどり着くのに、タクシーの運転手さんとうろうろしました。芦屋市のホームページでもう少し集会所の場所を分かりやすく掲載した方が、皆さん集まっていたきやすいのではないかと思います。	確かに少し分かりにくいかもしれません。担当に検討できるかお伝えします。	ホームページに各集会所の近隣地図を掲載しました。
2	1月24日(水) 潮見集会所 マンションにお住まいの方で、最近見かけないと思ってお部屋を訪ねると、認知症だったということがあります。民生委員の方はおられますが、断られるとお部屋には入れませんし、やはり地域の横の繋がりをどう広げていくかが課題だと思います。	芦屋市では、マンションに住む方が圧倒的に多く、7割ほどにもなります。芦屋は狭い市です。同じ面積あたりに住める人の数が違うからというのがありますが、芦屋はマンションのまちなんです。特に、分譲マンションの割合は日本全国でもトップ5に入ります。分譲マンションということは、同じ世代の方々が同時期に買いますので、高齢化するのも同じ時期になります。隣近所が皆同じ70代、80代になり、なかなか連携しづらいという話もよく聞きます。マンション住まいの方は自治会に加入していない人も多そうですね。	
3	1月24日(水) 潮見集会所 マンションの自治会でいえば、建設時に当時の会長がしっかりと念押ししないと管理組合に入ってくれないような状態だと思います。自治会離れがひどく、役員も70代や80代の方がずっとやり続けています。	自治会の話でいえば、今年2つの自治会で活性化の取組をしています。その1つが若葉町7番の自治会なんですが、大学生が幹事会に入っていることもあり、若い世代も自治会活動に参加しやすくなるような取組をしています。ウェブサイトで自治会の取組を発信したり、自治会のイベントに参加したらポイントを発行する仕組みをつくらせたりと、参加したいと思えるように工夫して取り組んでいます。若い人たちがどんどん自治会活動に参画できるよう、市も考えながら取り組んでいきたいと思っています。	
4	1月24日(水) 潮見集会所 順番に役員が回ってくるマンションもあるそうですが、順番制なのはすごくいいと思います。そこに住んでいる人で回っていくと、興味がなくてもそこに知り合いができたりにして、何か楽しみが見つかったり、自分が学べるものがあると思います。長く役員をやる方がいると、ますます若い方が入ってきづらくなる気がします。人によっては、自治会があるということも知らない方も大勢いらっしゃるんじゃないかなと思います。自治会が異世代交流の場になるようなシステムを市で作っていただければいいのではないかと思います。	最後までご自宅で住み続けられるようにするというのは、本当に大事だと思います。介護が必要な方でも、障がいのある方でも、施設に入るのではなく住み慣れたご自宅でずっと生きていきたいという声は多くなっています。できるだけ皆さんの近いところに、相談できる場所であったり、何かあったときにすぐ駆け込める場所をつくることは本当に大事だと思っています。何かあったとき、保健福祉センターまで来てくださるとなると大変です。現在は市内に4か所の高齢者生活支援センターというものをつくっていますが、例えば、もう少し皆さんの近いところに移したり、施設の数を増やしたりすることも考えていきたいと思いました。市に相談することにハードルを感じていらっしゃる方も多いので、気軽に相談できるような地域のコミュニティをつくるという点には、引き続き取り組んでいきたいなと思っています。	
5	1月24日(水) 潮見集会所 長く芦屋市に住んでおり、ずいぶん変わりましたが、これからも長く芦屋に住み続けたいという思いがあります。障がいのある人や後期高齢者が最後まで自宅で暮らし続けられる方法を考えていただけるとありがたく思います。		
6	1月24日(水) 潮見集会所 民生委員について、宝塚市の取組が充実しており、具体的には週に1回、高齢者の方が集まる機会を民生委員さんが設けています。集まって楽しくお話するだけの会ですが、週1回の開催は決めておられるそうで、もし来られない方がいれば、「どうされたの？」と連絡しやすくもあり、良い取組だと思っています。	民生委員さんの活動には本当に頭が下がります。ご意見いただきありがとうございます。	
7	1月24日(水) 潮見集会所 障がい福祉について、市役所の自立支援医療受給者証の発行が遅過ぎると思っています。申請後届くまでに6か月もかかっているそうです。届くまでは代わりの証明書は頂けるのですが、やはり現物が早く欲しいですし、またそれを取りに行くために、市役所にも行かないといけません。改善していただきたいと思っています。	受給者証の審査などに時間がかかってしまっていること、心配に思われていると思います。おそらく何かしらの理由があると思うのですが、担当課に確認しておきます。申請などの話で言えば、わざわざ役所に行く必要があるのかと思うこともたくさんありますよね。今では、証明書の発行などは、多くの分野でマイナンバーカードを利用してコンビニでできるようになっています。コンビニ発行の方が料金は安いのですが、今でも8割以上の方は市役所でお手続きされています。我々もできるだけ市役所に来なくてもできる手続を増やしていこうと思っています。	現在、自立支援医療（精神通院）の受給者証発行には通常約3か月かかっています。申請がありましたら、県が指定する進達日に合わせて市から進達を行っておりますが、県が審査し、交付を決定するまでに時間をいただいているところです。受給者証は、届き次第迅速にお届けできるよう対応しております。また、自立支援医療（更生医療）の受給者証発行についても、初めての申請の際は県の判定が必要で、通常約2～3か月のお時間をいただいております。こちらも、判定が下り次第迅速にお届けできるよう対応しております。また、当該受給者証は、上記のとおり県が交付しているもののため、市で電子申請化を行うことができません。電子申請化の予定も県から示されておりません。

当日の主なやりとり			備考 (補足説明など)
	市民の発言	市長の発言	
8	1月24日(水) 潮見集会所 気軽に行けるファミリーレストランや回転ずし、ファストフード店など、価格帯の低い飲食店が市内にもう少しあればいいなと思います。またカラオケなど、みんなで集まれる場所もあればいいですね。	この件については、市というよりそれぞれの企業の出店戦略によると思います。中学生からも市内にカラオケが欲しいとの声は非常に多くありました。昔JR芦屋駅近くにカラオケがありましたが、聞くところによれば、新型コロナウイルス感染症が流行し、カラオケによく通っていた高齢者の方が行かなくなったため閉店されたようです。中学生には、もっと上の世代を巻き込んで主張していけばカラオケができるかも、と言っています。市としては、カラオケは条例で規制していません。皆さんで運動をおこなっていただければ、企業の方も振り向いてくれるかもしれませんね。また、集会所などでもみんなで歌を歌うような会をしてくださる方もいらっしゃいます。	
9	1月24日(水) 潮見集会所 民生委員について、絶対数が不足していると思います。水道局からだったか、シルバー人材センターの方が、月初に安否確認の電話しており、1週間の間に電話を取られなかったら再度お電話するような仕組みがありますが、こういった仕組みについて、対象の範囲をもっと広げていってはどうでしょうか。もしくは町内会などで、時間的に余裕がある方の見守り隊チームを登録制で作るなどはどうでしょう。どのみちいつかは見守られる側になりますので、元気なうちはコール担当をして、その後はお願いするといった仕組みを、町内会自体でやっていく必要があると思います。町内会の中で情報収集をしていけば、災害が起こった際にも、比較的身近な単位で救出に行きやすいですし、今後はそういった仕組みを作っていかなければいけないのではないかと思います。	市民のコミュニティを強くすることは、災害時に限らず本当に重要だと考えています。能登半島地震を見ても思いますが、災害時には、どうしても職員はすぐに駆けつけることはできません。市役所の職員は、市内在住の職員が約2割、西宮市や神戸市に居住し30分程度で駆けつけられる職員は約半分です。何かあった際、地元の方々がいかに早く動けるか考えておくのが、命を守るために最も大事だと思います。市では、何かあった時に支援が必要な方々の名簿を作っており、自主防災会や自治会の一部に共有をしています。ただ、その名簿は結構機微な情報が載っていますので、なかなか様々な方には渡すことはできず、悩ましく思っています。誰にでも情報を渡すことは難しいですので、基本的には、自主防災会のような地域の組織に入っていくことが一番ですし、そういった場面にいかにか若い人たちに入っていくことが重要だと考えます。	
10	1月24日(水) 潮見集会所 先ほど、何かあった際に支援が必要な方を登録しているという話がありましたが、逆に、若い人などで、何かあった際に他の人を助けることができる若い人の登録はされていないのでしょうか。助ける必要がある方だけでなく、若い方で「〇〇町までなら助けに行くことができる」といった情報を登録して仕組みがあればいいのではないかと思います。若い人を何とか巻き込もうと思えば、学校などに周知の協力を依頼してもいいかもしれません。友達が登録していれば、自分もしてみる、といったように広がっていくと思いますし、家に帰って親にも話して、親も登録して、といった効果もありそうです。	現在若い人を登録する仕組みはありませんが、登録することで、責任感が芽生えることもありそうです。先日、防災訓練をしたのですが、悪天候にもかかわらず1,200人ぐらい来ていただきました。若い世代や親子連れ、友達とみんなで参加した小学生と、本当にありがたく思います。学校にも防災備蓄倉庫がありますので、学校を通じて何かするのはいいかもしれませんね。	本市では、災害発生時に迅速な避難を行なうため「緊急・災害時要援護者台帳」を整備しています。これは、ひとり暮らしの高齢者や障がいのあるかたなどが、緊急・災害時に避難が遅れたり、安否がわからないといった状況にならないよう、氏名、住所、緊急時の連絡先などの情報をご登録いただき、ご本人の同意の範囲で民生委員・児童委員・芦屋市社会福祉協議会などの関係機関に登録内容を伝え、平常時から地域との関わり合いを持ち、緊急・災害時に役立てることを目的としています。なお、緊急・災害時要援護者台帳では、緊急・災害時に「地域で避難支援をしてくれる人」を登録する項目も設けています。
11	1月24日(水) 潮見集会所 最後まで自宅で過ごしたいという話が先ほどありましたが、マンションでは独居の方が誰にも気づかれずに亡くなっていることもありますし、逆に倒れていたけれど、たまたま管理人さんが気づいて助けられた、という話も多いです。そういった異変に気づいてもらうためにも、ご近所さんとの関係性を作っておくことが大事だと思います。	関係性づくり、大事だと思います。ご意見ありがとうございます。	
12	1月24日(水) 潮見集会所 障がいのある子どもを育てているのですが、福祉の手続の中で、福祉と教育の境目が分からないことがよくあります。話が伝わっていると思っていたらそうではなかったりするので、行政としてワンストップサービスになるよう、どういった方にどういった支援が必要なのかを集約していただけたところも楽になるかと思っています。	課をまたいで子どもに関する手続きをしていただく際は、基本的にはこども家庭・保健センターが中核となり、出産前の妊娠時からその後もずっと見守っていこう、という方針がありますので、まずは、こども家庭・保健センターにご相談いただくのが一番です。ただどうしても、担当課が違い、市役所に行かなければならないこともあると思いますので、ワンストップというのは、引き続き考えていきたいと思っています。	
13	1月24日(水) 潮見集会所 育児と介護は共通していることがありますよね。子どもがGPSを持っているのも当たり前前の時代ですので、高齢者の方にも同じようにやはりITやテクノロジーを活用していけるよう、市も支援していただきたいと思います。人と人の繋がりを否定するわけではなく、プラスアルファで、そういうテクノロジー面でのサポートもあれば、より安心かと思っています。	その視点はすごく大事ですね。本市でもGPS機器の貸与をしていますが、認知症の方限定にはなるのでなかなかこの事業について知られていません。我々の広報不足でもあるのですが、良いと思ってくださったら、皆さんからもぜひ周りの方にお伝えください。	

当日の主なやりとり			備考 (補足説明など)
	市民の発言	市長の発言	
14	1月24日(水) 潮見集会所 高齢者がどんどん増えていますが、エンディングサポートプランといったことは芦屋市は考えていますでしょうか。民間のセミナーなどもありますが、有料であっても市で実施していただいた方が安心かなと思います。	エンディングサポートについては、現状市が主体となって何かをしているわけではありません。その代わり、例えばシルバー人材センターであったり、社会福祉協議会などの団体にいろいろと実施していただいている状況です。遺言や相続に関してお悩みの方は多いと聞きますし、ニーズが上がっているのは実感していますので、今後も市で何ができるか研究していこうと思います。	
15	1月24日(水) 潮見集会所 さわやか収集事業について、非常にありがたいと思うのですが、市の職員の方が収集して下さる以前に、地域の方でできるのではないかと思います。自分のごみ出しに行くついでに、ご近所に困っている方がいれば出してあげるといったことをやっていったらどうかと思います。異変にも気がつきやすくなり、地域のコミュニティの形成にも繋がります。自治会に若い方の参加がないといった課題があるようですが、例えば20代、30代の方が、向かいのお年寄りのごみを出しに行くといったことをきっかけに、関係性も広がっていくのではないかと思います。ニーズがはっきりしていますので、あとは市が「〇〇町のこの方のために誰か手伝えませんか」といったマッチングをすれば、繋がりのきっかけづくりになります。	私も助けたいという方が、潜在的にいないのではないかといいことですね。面白い視点だと思えますので、考えてみたいと思います。いかに普段から関係性を作れているのかが大事だと思いますが、ごみ出しは毎週ありますので、それは「普段」になります。そもそも近所の方とどう出会うのかも重要です。私の場合、地域のイベントで初めて出会う、ご近所の皆さんと交流できたのですが、そういった最初の知り合う機会をどうやっていくかは大事だと思います。まさに集会所のような場を、どう使っていくかということにも繋がると思っていますので、我々もしっかりと場を作り、応援していきたいと思えます。	本市では、一人ひとりが地域のために、自分の「できること・したいこと」を行い、持続的な地域での支え合いの体制づくりとして、ボランティア活動に応じてポイントが付与される「ひとり一役活動推進事業」を実施しており、高齢者等の居宅での活動の一つとして、ゴミ出し支援も行っています。
16	1月24日(水) 潮見集会所 防災訓練や安全教育などをやる際には、実際に近所を皆で歩いて、どこまで逃げればいかなどを実際に体を動かして体験し、体にしみこませるまでができればよいと思います。学校の行事などにして、子どもたちが地域と繋がる仕組みにすれば、関係性の構築にも繋がります。	経験が大事ですよ。ご意見ありがとうございます。	
17	1月24日(水) 潮見集会所 災害の際、若い人がどうにかしてお手伝いできないか、という話がありました。が、中学1年生の自分も、頑張れば多分できると思うし、みんなでやれば頑張れるんじゃないかと思えます。	私が小・中学校や高校を周り、また対話集会を通じて思ったのは、子どもたちは意外と皆社会に関心があるということです。最近の子どもは自分のことしか考えない、といったことも言われますが、地域のことを考えている若い子たちもたくさんいるんだなと思いました。そういった子どもたちが、地域と繋がることのできる場を作っていくことができればと思っていますので、その時は、ぜひ参加してください。	
18	1月24日(水) 潮見集会所	対話集会を通して、一番嬉しく、ありがたく思ったのは、こうやって参加して下さる方々同士で繋がりができていっていることです。あえてお伝えすると、一から新しいことを始めて、それを市が全部やります、といったことは正直もう難しい。すぐ応援したいと思ったことでも、0から市がやるとなると難しい、といったことは多々あります。ですので、何かするとなった時は、市を待たずに始めてください。私自身が参加したり、別の形で応援したりすることはできますし、やはりそれが地域のためになることであれば、市役所としても応援できると思います。せっかく本日、こうやって集まっていたので、皆さん同士で繋がっていただければすごく嬉しく思います。	

当日の主なやりとり			備考 (補足説明など)
	市民の発言	市長の発言	
1	1月26日(金) 三条集会所 三条町は坂が町なんです。高齢者が一人暮らしをするのに、この坂の上り下りがあるのは、自立したくても難しいですし、これは三条町の課題だと思っています。先日、すぐ隣の神戸市森北町に散歩に行ったとき、どんぐりバスという非常に小型のバスが、住宅街の細い山道のとても不便なところを走っているのを見ました。そういったものが三条町にもあれば、高齢者も買い物に行くことができ、一人での生活も長くできたり、生活の質を維持できるのではないかと思います。そう思っている市民の方が多いと思いますので、そのあたりをもう少し分析していただいたらと思います。		
2	1月26日(金) 三条集会所 私の親が骨折した後歩けなくなり、そのマンションから出られなくなってしまいました。認知症ではまだないのですが、活動が減ってから、どんどんその傾向が出てきているように思います。外出できないことは、高齢者にとってリスクが大きいと思います。やはり坂道が多いまちですので、モビリティの仕組みが必要ではないでしょうか。三重県の商業施設のVISONでは7、8人乗りの無人のモビリティが走っていますが、そういった高齢者でも簡単に扱えるような自動運転の機能などが普及して、高齢者になっても動けるまちにして欲しいと思います。		
3	1月26日(金) 三条集会所 選挙の時の市長の政策提案集市長の中に、AIデマンドタクシーの記載がありましたが、そういったものが実現するためには、私たち市民は何をすればいいのでしょうか。	三条町に来るたびにバスの話について非常に多くのご意見をいただいております。皆さんがお困りだということは認識しています。その上で正直にお伝えしますが、まずコミュニティバスは採算が合いません。仰った神戸市のバスは自治会から非常に多くのお金を出していますが、それを三条の自治会から皆で出すとなるとなかなか厳しいですね。その理由で、コミュニティバスは正直ほぼ無理だと思っています。私は政策提案集にデマンド型交通のことを書きましたが、デマンド型交通というのは、欲しいときに予約をして、皆で乗り合いで使うという交通機関なんです。乗り合いですので、普通のタクシーよりは時間がかかりますし、定時運行ではありませんので、すぐに乗りたいと思ってもタクシーがないといったことはあるのですが、ある程度予定を立てて、その時間に乗るといことであれば、十分交通手段として使えるといったものです。いろいろな地域で活用が始まっていますので、検討できればと思っていますのですが、実現に向けて1つだけすごく大事な条件があります。これがまさに皆さんにいただきたいことなのですが、実証期間中に絶対に使ってください。	
4	1月26日(金) 三条集会所 高齢者のバス運賃の助成制度について見直しをお願いしたいと思います。例えば家で寝たきりの方だとすれば、半額チケットをもらっても役に立ちません。それが500円のタクシーチケットにしてしまえば使えます。例えばパーキンソン病などの特定疾患の方には、同じような条件でタクシーのチケットを出していますよね。この制度の予算は一昨年で6,000万円だったものが、8,000万円にもなっています。実際に助成を受けているのは健常者の方が多いのではないのでしょうか。この制度を使ったことがないという方は多いと思います。タクシーチケットにしてしまえば、平等に使えますし、皆の外出のきっかけになります。市は音楽会や落語の会などを企画して、高齢者を家から引き出すといった形の方が、同じお金を使うならいいと思います。	新しいことを始める場合には必ず最初にお試し期間があります。実証実験というのですが、この期間中に乗っていただきたいんです。実証実験というのは要は、意味があるのか、ないのかを確かめる期間です。この期間中に利用が少なければ、実現しても利用者がいないということになり、二度と実現しません。まだ内部でも調整中なのですが、今後実証実験をするという話になれば、ぜひ利用してください。タクシーに乗ることに抵抗がない方にとってみれば、値段があがってもタクシーのほうが楽だと思われる方もいると思うのですが、使わないと採算が合わなくなります。実証実験がいつできるのかは、まだ先の話になりますが、そのタイミングになりましたら、ぜひ使ってください。よろしく申し上げます。	
5	1月26日(金) 三条集会所 バスの助成はバス停に行くことができない人にとってはもらってもあまり役に立ちませんので、それこそAIを使って何かできればいいのではないのでしょうか。藤沢市のある大学キャンパスでは、寮から最寄り駅まで40分かかるとありますが、バスが早い時間に終わってしまうらしく、学生たちが自分たちの人数とバスの頻度を計算したところ、どうしても乗り切れない本数だったそうです。そこで自分たちでタクシーの乗り合いを集うアプリを開発したところ、それが広まり、1人でタクシーに乗らなければならないことがかなり減ったそうです。学校や市に言っても時間もかかりすぎますし、いっそ自分たちの柔軟な発想でそういった仕組みを作り、広げていく。自分たちの生活を暮らしやすいようにするためには、自分たちが動くのが一番早いと、自分たちの力で何とかしようとしているのが若者たちの姿が垣間見えて、今回の話でも、私たちにできることはないのだろうかと思いました。市に任せきりではなく、市民がこうしてくれたら市は動きやすいとか、そういうのがあれば、教えていただきたいなと思いました。		
6	1月26日(金) 三条集会所 バスのことについて皆さんがこれだけ関心があることに驚きました。議員さんも質問したりしますが、役所の人は費用がかかりすぎるとかできない理由を言いがちです。芦屋病院に無料のシャトルバスがありますが、無料にする必要まではないと思います。市長はしっかりと実現してください。		

当日の主なやりとり			備考 (補足説明など)
	市民の発言	市長の発言	
7	1月26日(金) 三条集会所 芦屋市は兵庫県の中でも高齢化が特に進んでいるという話がありましたが、原因の分析はされていますか。	県北部は更に高齢化が進んでいるのですが、阪神間などの南の方で比較すると、芦屋市は尼崎市や西宮市、明石市よりも高齢化が進んでいる状況です。我々もいろいろと分析しているのですが、出生率がこの地域の中では一番低くなっています。これが子育て支援を充実させていかなければいけないと考えている理由でもあります。家賃や物価が高く、子育て世代が移住しづらい前提条件もありますが、それでも芦屋を選びたいと思ってくださる方や、一度芦屋の外に出てしまったけど、もう一回帰ってきて子育てしたいと思ってくださる方々をこれからいかに引き込んでいくかを考えていかなければならないと思っています。	
8	1月26日(金) 三条集会所 芦屋市の人口も減ってきているのですか。	減ってきています。資料にもありますが、2053年には約7万5,000人と現在の80%にも減ってしまいます。他市がどのように予測をしているかは異なりますので、一概に比較できませんが、高齢化が進んでいるかつ出生率が一番低いことを考えると、芦屋市は今後より人口減少が進みやすい傾向にあると思います。芦屋市は大きな会社と工場が多くありませんので、人口が減るということはダイレクトに税収に影響してきます。ですので、できるだけ人に投資するような政策が必要だと考えています。	
9	1月26日(金) 三条集会所 聞いた話なのですが、OTTK術というのがあります。「お金を使わず楽しく暮らす術」なのですが、集会所などはまさに高齢者の方がお金をかけずに催し物に出かけられる場所ですね。春日集会所は、鳴海御影線が通じるときに、住民のために使って下さいと寄附していただいた土地の上にあります。このたび統廃合されようとしており、悲しく思っています。災害時には避難所にもなる場所ですので、ぜひ存続をお願いします。市の土地ではなく、住民の方が寄附された土地ということをお忘れしないで欲しいと思います。	集会所は市が管理運営しています。人口が減ると、集会所のような公共施設の1人当たりの面積負担がどんどん上がってきます。そうなれば、ほかの政策にお金が使えなくなりますので、やむを得ず数年前に統廃合の話が出ました。もともと打出教育文化センターと統合しようという話でしたが、そこは完全に切り分けて打出教育文化センターのみでリニューアルを行っており、もうすぐオープンします。つまり、現状では春日集会所を統廃合することは考えていません。ただ30年後も40年後も同じように運営できるとは限らず、正直難しくなるタイミングは来てしまうと思います。その時は、市民の皆さんも一緒にどうしていくか考えていけたらと思います。それぞれの建物に歴史経過がありますので、何とか残したいという気持ちは私も同じですが、お金にはやはり限界がありますので、今後も皆さんと考えていきたいと思っています。	
10	1月26日(金) 三条集会所 大学生や市民の方が、今の高齢化の問題や芦屋のことを考え、案を出し合えるプラットフォームはないのでしょうか。万博も始まる中で、いろいろな自治体が、民間や個人、団体や企業と連携してやっというプラットフォームが出来上がっています。渦中にいる方より、少し離れた視点からご意見があった方が、新しい柔軟な発想が出てくるのではないのでしょうか。	すごくいい案ですね。今回に限らず対話集会では、皆さん結構「こういう案があります」と話してくます。これまで案を発信する機会がなかったけれど、対話集会で知り合い、一緒に何か始めました、といった方も実はいらっしゃって、すごく嬉しく思っています。芦屋は「こえる場！」という取組をやっていまして、企業やNPO、市民団体が集まり、普段の自分の所属を超えて一緒に何かできることはないかを考える、まさにお話にあったようなプラットフォームづくりをしようとしています。新型コロナウイルス感染症の流行で、オフラインの会議がなかなかできなかったのですが、昨年11月に久しぶりにオフラインで開催しました。「こえる場！」は、個人というより団体で取り組んでいくものなのですが、個人のアイデアを共有できるような場なども考えてもいいかもしれませんね。	
11	1月26日(金) 三条集会所 中学生の頃、1つのクラスに2人ぐらい不登校の人がいました。何か先生に言いたくても忙しそうに聞いてくれず、何かできることがあればいいのと思いました。いじめのアンケートみたいものがありますが、書いたとしてもあまり対応してくれない印象です。何かあった時に、先生を異動させて解決しようとしたりしますが、結局ただの循環というか、同じことになってしまうんじゃないかと、辛く思っていました。高校ではスクールカウンセラーの方がいて、何かあれば話を聞いてくれる人がいます。	共有してくれてありがとうございます。実はちょうど6時間ぐらい前に、県の会議があり、知事に直接お会いして不登校の話をしてきました。県も学校の先生以外の人を学校に入れるなどして、子どもたちの心のケアをきちんとできるよう進めようとはしてくれてるんですが、まだ足りませんよね。私が最初に発言したのですが、他の首長の方も同じことを話されており、これはもう全県的な課題になっています。不登校でなくても、本当は学校に行くことを辛く思いながら何とか通ってる子どもたちもたくさんいます。義務教育の間の学びの機会をきちんと保障することは、大きな責任ですので、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。	
12	1月26日(金) 三条集会所 今の介護・医療のままでは、高齢者を支えるための負担がどんどん増えていきます。高齢者を支える人口の減少、つまり少子化が大きな課題だと思いますので、これからは子育て施策に思い切ってお金をつぎ込んでいったらどうでしょうか。芦屋市は子育てにこれだけ力を入れてやっているんだと、マスコミにもどんと載せて、どんどん芦屋市に来てくださると宣伝してはいかがですか。このままでは、支える人がいなくなり、福祉が沈んでいくのが目に見えていると思います。	いわゆる先輩世代の方からそういったことを言っていただけなのは、すごくありがたいです。芦屋市は広い土地は余っていないですし、家賃が高めということもあり、他市と同じことをやろうとしてもできません。もちろん、住宅の環境整備とともに、経済的支援は併せて考えていかなければならないと考えています。この夏から大幅に拡大することも医療費助成がその一つです。そのほかにも、安心して出産・子育てができる政策や、芦屋市で学ばせたいと思っていただけるような教育の質を上げる政策が必要だと考えています。しっかりと取り組んでいきたいと思っています。	
13	1月26日(金) 三条集会所 見守りSOSネットワーク事業という画期的なものは、いつ頃から始めていたのでしょうか。また、この事業について今考えている問題点や懸念点などはありますか。	いい事業があるのに市民にあまり知られていないということがよくありますので、もっと広報していかなければいけませんね。この事業は県が頑張っていた事業で、芦屋も一緒になってやっている事業です。課題のひとつに、メールを受け取るネットワークの協力員さんが、やはり個人情報でもありますので、信頼できる民生委員さんなど範囲が限定されていることもあると思います。また、メール配信も24時間ではありません。そういった意味では完璧な事業というわけではありませんが、日中に行方不明になった際などはすぐ配信できるようになっていますので、効果はあると思っています。	

当日の主なやりとり			備考 (補足説明など)
	市民の発言	市長の発言	
14	1月26日(金) 三条集会所 芦屋市はとても子育てしやすく、皆さんにお勧めしたいのですが、芦屋市は何でも高いと思われがちで、選択肢に入らないそうです。建ぺい率も厳しいので、家族で住むような家もなかなか建てられません。そのあたりが少しでも緩くなれば、人が来てくれるのではないのでしょうか。また、集会所の中に、市が運営するようなスーパーのようなものがあれば、人も集まりやすく、地域の交流にもなるのではないのでしょうか。移動販売などを町内に呼んでくるなど、外に出ていくことばかりではなく、内に呼ぶことも考えてみてはどうでしょうか。		
15	1月26日(金) 三条集会所 内に呼ぶという話がありましたが、海外では、生活必需品は無料でトラックで運んでくれるというものがあります。先ほどのバスの話では、採算が合わないといった話でしたが、そういったデリバリーであれば、皆が必要なものですし、1回で一気に運べると思うので、コストも低くて済むのではないかと思います。	集まる場をどうつくるか、まさに地域コミュニティをどう強くしていくかという話だと思います。そのために核になるのが集会所ですが、公園もうまく使っていききたいですね。皆さん、公園を貸し切ることができるとことは知っていますか。夏祭りなどで貸し切ったりしていますよね。実は、事前に市に申請をいただければ可能なんです。公園であれば、マルシェなども開催できます。集会所ではお金設けはできないのですが、公園では物を売ったりしてもいいんですよ。ですので、フリーマーケットや皆さんで集まるイベントにうまく使ってもらえればと思います。市が主催でとなるとどうしても難しいところもありますが、地元の方々がやったださるのであれば、市はぜひ応援したいと思います。	
16	1月26日(金) 三条集会所 中山間地域などでは、既に移動販売のような取組はありますよね。新しい取組を立ち上げるといった話を、いかに市が推進していくかがポイントだと思います。市から直接話を持ちかけると、利権の話などもありますので難しいですが、例えば、集会所に週に何回かといったところから始めて、それを広げていく仕組みを作らなければいけないと思います。		
17	1月26日(金) 三条集会所 常々考えているのですが、子どもたちが高齢者や外国人の生き方を見て、こんな生き方があるんだな、こんな技術を持った人がいるんだな、こんな国の人がいるんだなと、様々なことを自然に知るような芦屋であってほしいと思います。そういったことのために、誰もが集まることができるフリースペースのような場所が、市内のいろいろな所にあればいいと思います。緑のある広場にベンチがあったりして、そこに多様な方が暮らしていることを見られる環境になることをぼんやりと望んでいますので、これから頑張っていってもらえればと思います。		
18	1月26日(金) 三条集会所 何をやるにもとにかくお金が必要ですし、税も減っていきますので、資金調達についても新しいことを考えていかなければならないのではないのでしょうか。例えば高座の滝からの登山客などは相当いますので、入山費のようなものを作ってはいかかでしょうか。登山道の整備にかかっている費用を、登山家の人たちに少し払ってもらうような仕組みです。イギリスなどでは、川で魚釣りをしようと思ったら、川の使用料を払う必要がありますし、それが当たり前です。やはり使っている場所に対してそれなりにお金を支払うことが当たり前といったマインドを持つように世の中も変わっていかねばならないと思います。	資金調達についてはふるさと寄附をはじめ、考えていかねばならないと考えています。ご意見ありがとうございます。	有名観光地の入山料につきましては、とても良い取組だと思います。しかしながら、本市が管理する六甲山へのハイキング道につきましては、富士山等とは違い、入山するにあたり入口が様々な住宅地などの多岐にわたっており、入山者や入山料の管理が難しい状況となっているため、入山料の徴収につきましては難しいと考えます。また、市民の方が自然に触れる機会を持っていただきやすいようにするためにも、入山料を徴収する考えは現在のところございません。御理解賜りますようお願いいたします。
19	1月26日(金) 三条集会所 認知症に関することですが、活動が少なくなってしまった高齢者は家族にとって大きな負担になってしまいます。そうなれば、認知症もどんどん進んでしまいますので、何か刺激を与えないといけません。デイサービスなどでは、同じ世代の人ばかりで刺激がありませんので、やはり全年代が違う人と接する機会がすごく大事だと思います。例えば、ご高齢の方がいろいろなお子さんと接する機会があると、子どもにとっても学ぶことも多いでしょうし、高齢者の方々にもいい刺激になって、認知症の進行も抑えられるのではないのでしょうか。ぜひ芦屋でもそういったものを考えていただきたいと思います。	異世代交流のお話ですね。このことについても、どう「場」を作るかということかと思っています。そう思えば、だんじりが果たしていた役割は結構大きいのではないかと個人的に思います。それこそ何十年も参加している人から、10代や10歳未満の子どもたちもいますよね。伝統をそういった形で守ってくださっているということにはすごく意義がありますね。そういうような場をどう残していくか、守っていくか、また、つくっていくか、引き続き考えていきます。	
20	1月26日(金) 三条集会所 阪急から北側の道は非常に細く一方通行がとても多いです。バスを走らせること自身ができないらしいですが、今後どんな姿にするかというビジョンが見えません。西宮市などでは、「この場所にバスを走らせるため道を広げます」といったことが掲示してありますし、その通りになりました。芦屋の阪急から北側は、もう50年も変わっていません。具体化するのが遅くなったとしても、計画を作ってそれを示すことが大事だと思います。期待していますので頑張ってください。	中長期的なビジョンを今つくろうとしています。仰ったようにバスを通すのは難しいですので、いかに別の手段で公共交通を補完していくのかは考えていきたいと思っています。今年度、芦屋川沿いの2車線を一方通行にしたらどうなるかといったシミュレーションを行っています。今後を見据えたときに、どうやってあの辺りの交通をうまく回していくかは考えなければなりません。	

当日の主なやりとり			備考 (補足説明など)	
	市民の発言	市長の発言		
21	1月26日(金) 三条集会所	<p>広報について課題があるということでしたが、広報の手段としては、ホームページか紙媒体ぐらいですよ。それ以外の新しい広報の仕方を考えてはいかがですか。私の会社では、社員全員にスマホを配った結果、これまで全然伝わらなかったことが伝わるようになりました。何かのデバイスを使うかどうかは分かりませんが、要するに市民にどれだけいい情報、あるいは伝えたい情報を届けるかといったことを進めていただきたいと思います。広報掲示板を電子掲示板にしたりしてもいいかもしれません。ソーラーシステムで動くようにしてもいいですね。京都では、現在実証実験として回覧板などをLINEで回したりしているそうです。</p>	<p>広報掲示板などで情報を見つける方が多いですかね。一度デジタルサイネージも考えたことはありますが、市の条例に抵触するとなれば難しいなと思っています。自治会などでは、オンラインで情報を回すような取組をしているところもあります。広報の仕方については課題だと思っていますので、引き続き考えていきたいと思っています。</p>	